

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	無期限（設定日：2022年3月22日）	
運用方針	SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ベビーファンド）	SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド（ベビーファンド）	SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
分配方針	年1回（毎年3月10日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価損益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

運用報告書（全体版）

第1期

（決算日：2023年3月10日）

SBI・iシェアーズ・ 米国バランス（2資産均等型） （愛称：まるっと米国）

追加型投信／海外／資産複合

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI・iシェアーズ・米国バランス（2資産均等型）（愛称：まるっと米国）」は、2023年3月10日に第1期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		
(設定日) 2022年3月22日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 553
1期(2023年3月10日)	10,121	0	1.2	98.8	2,187

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) 当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		投資信託証券 組入比率
		騰落率	
(設定日) 2022年3月22日	円 10,000	% —	% —
3月末	10,215	2.2	102.1
4月末	10,090	0.9	99.8
5月末	10,047	0.5	98.9
6月末	10,139	1.4	98.3
7月末	10,456	4.6	111.0
8月末	10,522	5.2	90.7
9月末	10,277	2.8	99.0
10月末	10,817	8.2	99.8
11月末	10,352	3.5	98.9
12月末	9,779	△2.2	99.0
2023年1月末	9,946	△0.5	99.1
2月末	10,232	2.3	99.0
(期末) 2023年3月10日	10,121	1.2	98.8

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) 当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2022年3月22日から2023年3月10日まで）

○基準価額等の推移



設定日：10,000円

期末：10,121円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 1.2%

(注1) 当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化による米国金融政策の緩和への期待
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施されていた中国の行動制限緩和への期待
- ・対円で米ドルが上昇したこと

下落要因

- ・米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な政策金利引上げ
- ・英減税計画により財政悪化が懸念されリスク回避が強まったこと

○投資環境

<米国株式市場>

設定当初、米国市場を代表するS&P500種指数は4,400台で始まりました。米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派化に伴う米長期金利上昇への警戒感と中国景気への懸念や一部の米大型ハイテク企業の決算が嫌気されたことなどから5月中旬は3,900台まで下落しました。中国の景気支援策への期待などから7月は上昇しました。しかし8月中旬に4,300台に到達した後、FRBのパウエル議長がインフレ抑制に向けて利上げ継続姿勢を強調し、米金利が上昇したことなどを受けて、9月末に3,500台まで下落しました。その後、英減税計画の一部撤回や米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化が好感され、11月に4,000近辺までS&P500が反発しました。12月には一時的に低下しましたが、1月に、雇用統計で賃金の伸び鈍化が確認されるとともに、景気の軟着陸期待も強まったことから、上昇しました。しかし2月に雇用の大幅増加、CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念などにより、S&P500は調整局面に入り、3,800台で当期を終えました。

<米国債券市場>

米国10年国債は、3－4月は金利が上昇（価格は下落）しました。ハト派と目されていたFRB理事のタカ派発言や、FRBが速いペースでQT（量的引き締め）を進めるとの見方などから、金利は上昇しました。堅調な米雇用統計や、FRBが金融引き締めを積極的に続けるとの見方、米インフレ率の上振れなどを背景に、6月前半は金利が更に上昇しました。しかしその後、FRBの大幅利上げが景気を冷やすとの懸念から金利は低下しました。8－10月は経済指標の改善や、米CPIの伸び上振れ、FRBの利上げへの警戒感などから、金利が上昇しました。11－1月は米CPIの伸びが予想以上に鈍化したことや経済指標の悪化などから、金利が低下しました。2月は堅調な米雇用統計や、米ISM非製造業景況指数の上振れを受けて、FRBの利上げ打ち止め観測が後退し、金利が上昇しました。市場の金融政策の観測が経済指標データに左右されやすい状態が続く中、通期で金利は上昇しました。

<為替>

当期、米ドル円相場は円安に動きましたが、期末にかけて円高に戻る動きも見られました。3月下旬から、FRBの利上げ開始を受けて、金融引き締めが加速されるとの見方が強まる中、金融緩和を堅持する日銀との金融政策の方向性の違いが意識され大幅に上昇しました。利上げに加えQT（量的引き締め）開始なども実施するFRBと日銀の違いが改めて意識され、米ドルは対円で一段と上昇し、5月には、130円台に達しました。その後も0.75%の大幅利上げを3回連続で実施するなど金融引き締めを積極化するFRBの動きを受けてドル高円安傾向が続きました。このような状況下、9月22日に日銀は約24年ぶりに為替介入を実施しました。その後も、米CPIの高止まりにより引き締め懸念から米ドルは上昇し10月20日～21日に150円台を付け、為替介入が実施され140円台後半での推移となりました。期末、米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅が拡大されるとの見方がやや後退し、135円近辺で終わりました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

主要投資対象であるSBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド受益証券を高位に組入れ、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

<SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド>

主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズが運用を行う「iシェアーズ・コアS&P500 ETF」及び「iシェアーズ・コア米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は98.5%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

○分配金

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2022年3月22日～ 2023年3月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	132

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざし、主要投資対象であるSBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、現金比率を極力抑え連動率を高めていく所存です。

<SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド>

引き続き、「iシェアーズ・コアS&P500 ETF」及び「iシェアーズ・コア米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象とし、運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年3月22日～2023年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 6 (2) (2) (2)	% 0.062 (0.023) (0.023) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷) (そ の 他)	20 (7) (4) (9) (0)	0.191 (0.064) (0.042) (0.085) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等 信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	26	0.253	
期中の平均基準価額は、10,239円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

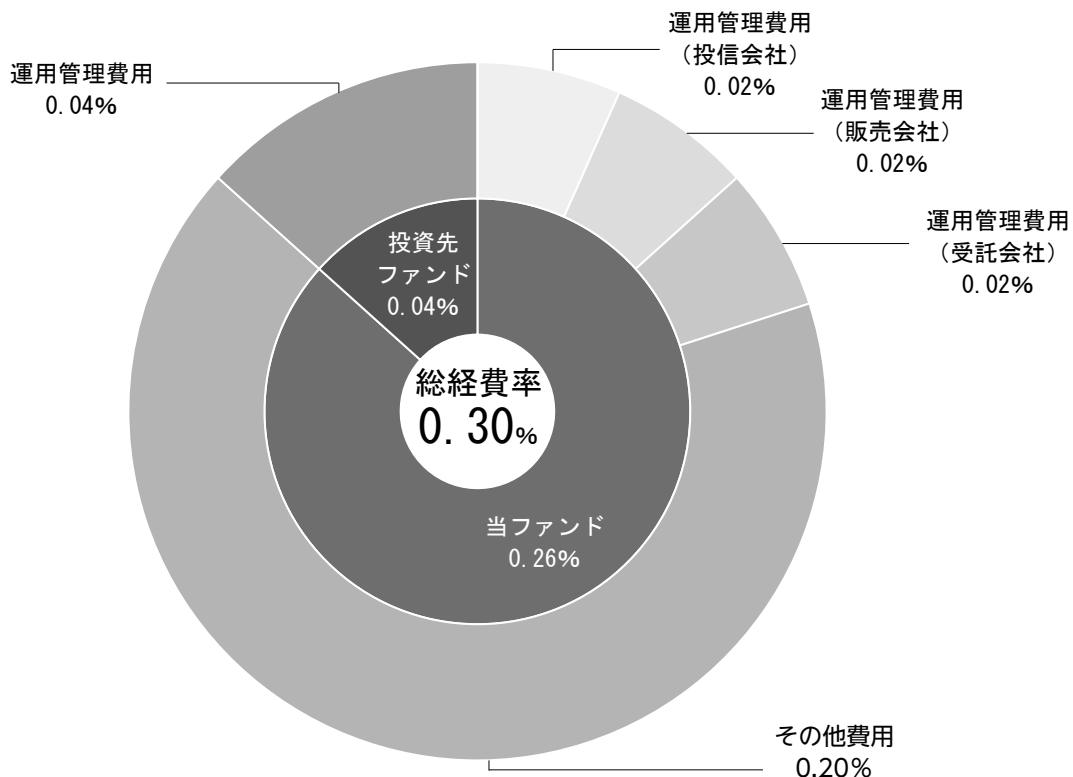
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.30%**です。



総経費率 (①+②)	0.30%
①当ファンドの費用の比率	0.26%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.04%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年3月22日～2023年3月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド	千口 2,578,422	千円 2,632,990	千口 417,977	千円 433,290

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月22日～2023年3月10日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年3月10日現在)

親投資信託残高

銘柄名	当期末	
	口数	評価額
SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド	千口 2,160,444	千円 2,194,147

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド	千円 2,194,147	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1	0.0
投 資 信 託 財 産 総 額	2,194,148	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンドにおいて、当期末における外貨建て純資産(2,164,285千円)の投資信託財産総額(2,194,213千円)に対する比率は98.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、3月10日における円換算レートは、1ドル=136.01円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	2,194,148,522円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	611
SBI・iシェアーズ・米国バランスマザーファンド(評価額)	2,194,147,911
(B)負 債	6,695,782
未 払 解 約 金	5,303,657
未 払 信 託 報 酬	569,699
そ の 他 未 払 費 用	822,426
(C)純 資 産 総 額(A-B)	2,187,452,740
元 本	2,161,253,104
次 期 繰 越 損 益 金	26,199,636
(D)受 益 権 総 口 数	2,161,253,104口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,121円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>

(貸借対照表関係)

期首元本額	553,998,436円
期中追加設定元本額	2,642,047,911円
期中一部解約元本額	1,034,793,243円

○損益の状況 (2022年3月22日~2023年3月10日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	△ 6円
支 払 利 息	△ 6
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	△ 18,946,200
売 買 益	14,737,961
売 買 損	△ 33,684,161
(C)信 託 報 酬 等	△ 2,951,478
(D)当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 21,897,684
(E)追 加 信 託 差 損 益 金 (売 買 損 益 相 当 額)	48,097,320 (48,097,320)
(F)計 算 損 益 金(D+E)	26,199,636
(G)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	26,199,636
追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 当 額)	48,097,320 (3,590,789)
(売 買 損 益 相 当 額)	(44,506,531)
分 配 準 備 積 立 金	25,073,808
繰 越 損 益 金	△ 46,971,492

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(25,073,808円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(3,590,789円)より分配対象収益は28,664,597円(10,000口当たり132円)ですが、当期に分配した金額はありません。

< i シェアーズ ETF について >

- ETF 市場シェア No. 1 ^{※1}のマーケットリーダー
- i シェアーズ ETF は、世界最大^{※2}の資産運用会社、ブラックロック・グループが運用する上場投資信託 (ETF) です。運用資産残高、商品数ともに世界の ETF 市場 No. 1。ETF 市場残高の 32.5%のシェアを持つマーケットリーダーです。
- i シェアーズ ETF を運用するブラックロックは、「人々の人生を豊かにすることに貢献したい」という志のもと、8人のパートナーにより 1988年にニューヨークで設立されました。現在、ブラックロックは世界約 30 か国、70 都市で、世界の主要な金融機関、年金基金、財団、公的機関、個人投資家のお客様に幅広い資産運用サービス及び商品を提供しています。

出所：※1 BLACKROCK GLOBAL ETP Landscape (2021年12月)

※2 Willis Towers Watson, The world's largest 500 asset managers (2021年10月)、グローバルの運用資産残高ベース

第 1 期 運用報告書

(決算日：2023年3月10日)

SBI・i シェアーズ・米国バランスマザーファンド

受益者のみなさまへ

SBI・i シェアーズ・米国バランスマザーファンドの第1期（2022年3月22日から2023年3月10日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは、次の通りです。

運 用 方 針	ETF（上場投資信託証券）への投資を通じて、米国の株式及び債券に分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。
主 要 投 資 対 象	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブの利用は価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	期中 騰落率		
(設定日) 2022年3月22日	円 10,000	% —	% —	百万円 553
1期(2023年3月10日)	10,156	1.6	98.5	2,194

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注3) 当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		投資信託証券 組入比率
		騰落率	
(設定日) 2022年3月22日	円 10,000	% —	% —
3月末	10,216	2.2	101.6
4月末	10,092	0.9	99.6
5月末	10,057	0.6	98.6
6月末	10,158	1.6	97.3
7月末	10,475	4.8	110.4
8月末	10,543	5.4	88.1
9月末	10,303	3.0	98.6
10月末	10,844	8.4	99.5
11月末	10,381	3.8	98.2
12月末	9,809	△1.9	98.7
2023年1月末	9,978	△0.2	99.0
2月末	10,266	2.7	98.9
(期末) 2023年3月10日	10,156	1.6	98.5

(注1) 騰落率は設定日比です。

(注2) 当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF(上場投資信託証券)に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2022年3月22日から2023年3月10日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は設定日10,000円から始まったあと、期末には10,156円となりました。期を通じて騰落率は1.6%となりました。

	設定日	期中高値	期中安値	期末
日付	2022/3/22	2022/9/13	2023/1/4	2023/3/10
基準価額 (円)	10,000	10,925	9,662	10,156

○投資環境

<米国株式市場>

設定当初、米国市場を代表するS&P500種指数は4,400台で始まりしました。米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派化に伴う米長期金利上昇への警戒感と中国景気への懸念や一部の米大型ハイテク企業の決算が嫌気されたことなどから5月中旬は3,900台まで下落しました。中国の景気支援策への期待などから7月は上昇しました。しかし8月中旬に4,300台に到達した後、FRBのパウエル議長がインフレ抑制に向けて利上げ継続姿勢を強調し、米金利が上昇したことなどを受けて、9月末に3,500台まで下落しました。その後、英減税計画の一部撤回や米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化が好感され、11月に4,000近辺までS&P500が反発しました。12月には一時的に低下しましたが、1月に、雇用統計で賃金の伸び鈍化が確認されるとともに、景気の軟着陸期待も強まったことから、上昇しました。しかし2月に雇用の大幅増加、CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念などにより、S&P500は調整局面に入り、3,800台で当期を終えました。

<米国債券市場>

米国10年国債は、3-4月は金利が上昇（価格は下落）しました。ハト派と目されていたFRB理事のタカ派発言や、FRBが速いペースでQT（量的引き締め）を進めるとの見方などから、金利は上昇しました。堅調な米雇用統計や、FRBが金融引き締めを積極的に続けるとの見方、米インフレ率の上振れなどを背景に、6月前半は金利が更に上昇しました。しかしその後、FRBの大幅利上げが景気を冷やすとの懸念から金利は低下しました。8-10月は経済指標の改善や、米CPIの伸び上振れ、FRBの利上げへの警戒感などから、金利が上昇しました。11-1月は米CPIの伸びが予想以上に鈍化したことや経済指標の悪化などから、金利が低下しました。2月は堅調な米雇用統計や、米ISM非製造業景況指数の上振れを受けて、FRBの利上げ打ち止め観測が後退し、金利が上昇しました。市場の金融政策の観測が経済指標データに左右されやすい状態が続く中、通期で金利は上昇しました。

<為替>

当期、米ドル円相場は円安に動きましたが、期末にかけて円高に戻る動きも見られました。3月下旬から、FRBの利上げ開始を受けて、金融引き締めが加速されるとの見方が強まる中、金融緩和を堅持する日銀との金融政策の方向性の違いが意識され大幅に上昇しました。利上げに加えQT（量的引き締め）開始なども実施するFRBと日銀の違いが改めて意識され、米ドルは対円で一段と上昇し、5月には、130円台に達しました。その後も0.75%の大幅利上げを3回連続で実施するなど金融引き締めを積極化するFRBの動きを受けてドル高円安傾向が続きました。このような状況下、9月22日に日銀は約24年ぶりに為替介入を実施しました。その後も、米CPIの高止まりにより引き締め懸念から米ドルは上昇し10月20日～21日に150円台を付け、為替介入が実施され140円台後半での推移となりました。期末、米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅が拡大されるとの見方がやや後退し、135円近辺で終わりました。

○当ファンドのポートフォリオ

主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズが運用を行う「iシェアーズ・コアS&P500 ETF」及び「iシェアーズ・コア米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は98.5%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、実質的に米国の株式及び債券に分散投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

○今後の運用方針

引き続き、「iシェアーズ・コアS&P500 ETF」及び「iシェアーズ・コア米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象とし、運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2022年3月22日～2023年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売買委託手数料	円 —	% —	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税	—	—	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	7 (7)	0.063 (0.063)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	7	0.063	
期中の平均基準価額は、10,260円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2022年3月22日～2023年3月10日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ		千ドル		千ドル
	ISHARES CORE S&P 500 ETF	24,204	10,165	3,820	1,557
	ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	94,465	9,715	13,244	1,330
小 計		118,669	19,881	17,064	2,888

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月22日～2023年3月10日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年3月10日現在)

外国投資信託証券

銘柄名	当 期 末				
	口 数	評 価 額		比 率	
		外貨建金額	円換算金額		
(アメリカ)	口	千ドル	千円	%	
ISHARES CORE S&P 500 ETF	20,384	8,019	1,090,700	49.7	
ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	81,221	7,875	1,071,104	48.8	
合 計	口 数 ・ 金 額	101,605	15,894	2,161,805	98.5
	銘柄数 < 比率 >	2	—	<98.5%>	

(注1) 円換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	2,161,805	98.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	32,408	1.5
投 資 信 託 財 産 総 額	2,194,213	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建て純資産 (2,164,285千円) の投資信託財産総額 (2,194,213千円) に対する比率は98.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、3月10日における円換算レートは、1ドル=136.01円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年3月10日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	2,196,524,371円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	32,407,890
投資信託受益証券(評価額)	2,161,805,178
未 収 入 金	2,311,303
(B)負 債	2,311,231
未 払 金	2,311,150
未 払 利 息	81
(C)純 資 産 総 額(A - B)	2,194,213,140
元 本	2,160,444,970
次 期 繰 越 損 益 金	33,768,170
(D)受 益 権 総 口 数	2,160,444,970口
1万口当たり基準価額(C / D)	10,156円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	553,990,000円
期中追加設定元本額	2,024,432,307円
期中一部解約元本額	417,977,337円
期末における元本の内訳	
SBI・iシェアーズ・米国バランス(2資産均等型)	2,160,444,970円

○損益の状況 (2022年3月22日~2023年3月10日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	27,871,854円
受 取 配 当 金	27,864,606
受 取 利 息	12,521
そ の 他 収 益 金	23,402
支 払 利 息	△ 28,675
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	△ 32,361,250
売 買 益	117,050,227
売 買 損	△149,411,477
(C)そ の 他 費 用	△ 997,464
(D)当 期 損 益 金(A + B + C)	△ 5,486,860
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	54,567,693
(F)解 約 差 損 益 金	△ 15,312,663
(G)計 (D + E + F)	33,768,170
次 期 繰 越 損 益 金(G)	33,768,170

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注3) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<ご参考>組入投資信託証券の概要

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
i シェアーズ・コアS&P500 ETF	米国大型株式	S&P500インデックス	0.03%	BlackRock, Inc.

組入上位10銘柄	比率
APPLE INC	6.0%
MICROSOFT CORP	5.6%
AMAZON COM INC	2.3%
BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.7%
ALPHABET INC CLASS A	1.6%
UNITEDHEALTH GROUP INC	1.5%
ALPHABET INC CLASS C	1.5%
JOHNSON & JOHNSON	1.4%
EXXON MOBIL CORP	1.4%
JPMORGAN CHASE & CO	1.2%

組入上位業種	比率
情報技術	25.7%
ヘルスケア	15.8%
金融	11.6%
一般消費財・サービス	9.8%
資本財・サービス	8.6%
通信	7.3%
生活必需品	7.2%
エネルギー	5.2%
公益事業	3.2%
素材	2.7%

出所：BlackRock, Inc.のデータを基にS B I アセットマネジメントが作成
(注) 2022年12月31日時点の比率です。

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
i シェアーズ・コア米国総合債券市場 ETF	米国債券	ブルームバーグ 米国総合債券インデックス	0.03%	BlackRock, Inc.

組入上位10銘柄	比率
BLACKROCK CASH CL INST SL AGENCY	4.4%
TREASURY NOTE	0.7%
TREASURY NOTE(2OLD)	0.5%
TREASURY NOTE	0.5%
TREASURY NOTE	0.5%
TREASURY NOTE	0.5%
FNMA 30YR UMBS	0.5%
UMBS 30YR TBA(REG A)	0.5%
TREASURY BOND	0.5%
TREASURY NOTE	0.4%

出所：BlackRock, Inc.のデータを基にS B I アセットマネジメントが作成
(注) 2022年12月31日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第1期期末時点で取得可能なデータを記載しており、将来変更される場合があります。